「　土砂災害の危険とは　」

三重県　四日市市立西笹川中学校　２年

今まで、私は「土砂災害」を経験したことがありません。ニュースやネットなどでは、山や川の近くで大雨が降ると土砂崩れや洪水など、災害への危険性が高まるなどと報道されているのは知っています。どのように対策をすれば被害を減らせるのか考えてみようと思います。

日本は、いろいろな災害が起こりやすい国だといわれています。その中でも土砂災害は「土石流」「地すべり」「がけ崩れ」の三種類があり、特に深刻な被害をもたらす災害の一つです。土砂が雨水や川の水と入り混じって大量に崩れ落ちる事によっておこる災害です。特に山間部や地形が急な地域でよく発生します。その原因はさまざまですが、主な例としては豪雨や地震、火山の噴火です。豪雨が続いたり、地震が発生すると土砂が崩れ落ちやすくなり、それが土砂災害を引き起こす原因となります。これらの要因が組み合わさることでより深刻な被害をもたらすことがあります。被害は大きく住宅や道路、農地などが土砂により押しつぶされたり、埋没することで、建物や人々への被害になります。特に山間部や、地形が急な地域では、土砂災害が発生すると避難が難しい場合が多く、より被害が拡大することがあります。また、土砂流出が河川や海に流れ込むことにより、水害を引き起こす危険もあります。これらの被害による復旧は、とても長い時間と、たくさんの費用がかかります。

では、このような被害を少しでも減らせるようにどのような対策をするとよいのか考えてみました。まず、ハザードマップを準備しておくことが大切だと考えました。ハザードマップとは国や市町村が提供していて、自然災害の種類ごとに予測被害範囲や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを地図で表したものです。被害を減らすためや、防災対策に使用することを目的として作成されています。活用方法としては、災害ごとの避難場所の確認、学校や職場からの帰宅経路の確認、よく遊びに行く場所やお店の危険性も確認できます。このようなことを事前に話し合って、確認しておくことも大切だと思います。

ハザードマップを見てみると、自宅から見える山が土砂災害警戒区域になっていて、その近くには何軒も家が建っているので、身近に危険があるのを知りました。

対策をしていても、災害が発生してしまった場合は次のような行動をとります。土石流の場合は土砂の流れる方向に対して直角に逃げます。土石流は速度が速いため、流れを背にして逃げるとすぐに追いつかれてしまうからです。がけ崩れを発見したら、すぐに山やがけから離れます。安全を確保したら、最寄りの市町村役場に連絡を入れます。避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の二階以上や、家の中でより安全な崖から離れた二階などに移動します。避難するときは家族と一緒に行動します。もし、ばらばらになってしまったときのために、連絡先を二つ決めておきます。遠くに住む親戚など、大きな災害が起きても被害を受けていない場所にしておくことが大切ですが、もう一つ近い場所にも連絡先を決めておきます。はぐれてしまったときのために、家族で集合場所も決めてあります。

避難をせずに在宅避難という手段もあります。災害時における在宅避難とは、自宅に倒壊や焼損、浸水、流出などの危険性がない場合に、自宅で生活を送る方法です。このメリットは、住み慣れた環境で生活ができ、感染症のリスクも減らせ、プライバシーも守って生活できるという点です。ペットを飼っている家族は安心できると思います。その一方でデメリットもあります。最新情報にアクセスしづらかったり、支援物資を受けとるたびに外出が必要になります。在宅避難を行う場合は、生活必需品の備蓄が必要です。

私のうちでは、災害の備えのために、各自のリュックに非常食や着替え、必要なものを準備しています。簡易トイレの使い方なども覚えておきたいと思います。

今回、土砂災害について調べてみると普段は考えていなかった身の回りの危険を知ることができました。これからも自然災害に備えていきたいです。